

事業シート（概要説明書）

担当課名	健康推進課	予算事業名	健康づくり人材育成事業（健康サポ-ター養成事業）						
担当係名	健康づくり推進室	上位施策 事業名							
シート作成責任者	磯江 昭徳								
事業開始年度	平成22年度	根拠法令	なし						
実施方法	直接実施								
	業務委託又は指定管理（委託先又は指定管理者： ）								
	補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体： ）								
	貸付（貸付先： ） その他（ ）								
事業概要	目的 （何のために）	<p>イベントや町づくり事業にボランティアの協力が増えてきて、今や実施には欠かせないものとなっている。自分自身の健康のためウォーキングを始めたりする人口は増えてきており、さらに健康づくりの輪を広げるため、健康ボランティアの養成を行うこととした。一人ひとりが生き生きと健康に暮らせる町となるにはどんなことが必要か考え、そして活動する「健康サポーター」の養成が神奈川県伊勢原市で行われており、それを本町でも実施した。</p>							
	対象 （誰・何を対象に）	<p>自身や家族の健康意識を高める意欲があり、かつ、町の健やかな暮らしの方向性を考えボランティア活動が実践できる町民を養成講座の受講対象とした。 募集は、町報（H22年5月号、H23年4月号）、告知放送で行ったほか、民生児童委員、食生活改善推進委員、健康推進員などに事業を説明し、募った。</p>							
	事業内容 （手段、手法など）	<p>（養成講座の実施） 養成講座を10回開催（5月～11月）。1回の講座時間は約2時間。会場は、健康増進センター会議室。講師は、ヘルスプロモーション研究センター（東京都千代田区）の職員と町保健師等。講座の内容は、講師による講義と参加者を5名程度のグループに分けてグループ討議の2通りで実施。途中の欠席等があっても、意志をもって最後まで講座を受講した者に修了証を授与。 （サポーターの会の支援）・・・講座終了者が「サポーターの会」を組織。 サポーターの会の学習活動、ボランティア活動を支援（会議での助言、研修先依頼など）</p>							
事業の必要性	<p>健康ボランティアに相当する職として自治会選出の「健康推進員」があるが、自治会の委員という性格が強く、役を降りた後に身につけた健康づくりの知識等を生かしてボランティア活動する場もなかった。養成講座を行うことで、ボランティア活動しやすい環境をつくることのできたと思われる。</p>								
コスト	平成23年度		人件費						
	事業費	950 千円	}	職員構成		概算人件費 （平均給与×従事職員数）		従事職員数	
	人件費	1,980 千円		担当正職員 6,600千円/人	1,980	千円	0.3	人	
総計	2,930 千円	臨時職員他 1,800千円/人		0	千円		人		
事業費 （財源内訳・単位千円）	年度	総額 （人件費含まず）	実施方法が補助金の場合、事業費の負担割合		財源内訳				
					特定財源		一般財源		
	H20(決算)								
	H21(決算)	国民健康保険団体連合会の健康づくり活動支援事業補助金							
	H22(決算)	1,303			600		703		
H23(予算)	950					950			

事業シート（概要説明書）					
担当課名	健康推進課	予算事業名	健康づくり人材育成事業（健康サポーター養成事業）		
担当係名	健康づくり推進室	上位施策 事業名			
シート作成責任者	磯江 昭徳				
平成23年度 事業費内訳	委託料：900千円（地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センターに委託） 初年度は1,300千円。町職員が講座を担当することで委託先職員の来町回数を減らし委託料を削減。 消耗品費：50千円（養成講座消耗品、サポーター活動消耗品） 初年度の消耗品は3千円程度で模造紙、ペンなどを購入。				
平成23年度 事業目標	新規健康サポーターを25人養成する。 H23当初受講：26人（10月現在、25人受講中） 昨年度講座を修了した健康サポーターが設立した「サポーターの会」の健康づくり活動を支援する。 H23活動：2か月ごとに定例会の開催、車いすの操作学習（町社協）、老人保健施設（鹿野町）で高齢者対応等について学習。（個人としては介護教室等のお世話、ラジオ体操の声掛け、食事ボランティアなどを実践されているとのこと）				
過去3年度の 事業実績	活動指標名	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	健康サポーター養成数	人			25
過去事業の 自己評価	H22年度の当初の受講生は29人で、最終的に25人が修了。2か年で50人程度のサポーター養成となり、「養成事業」としての評価は といえるが、「サポーター活動」の結果がでておらず、事業全体の評価はまだできない。 【H22受講者の感想】 <ul style="list-style-type: none"> ・長期間の取組で少々疲れました。地域の人々と親しく関わっていくための基本的な考えを身につけられたかなと感じます。これからの活動に役に立ちます。 ・自分自身の健康のために勉強させてもらうつもりで参加したが、そうではなく、“目指す姿”から考えていったこと。いろいろな意見があり楽しい講座でした。 ・数か月ごとにサポーターが集まって、その後の取組みの様子や状況を意見交換したい。せっかく学んだことをさらに向上させるため皆と力を合わせて深めたい。 ・まず生活習慣を含む自分の健康管理に気を付け、農作業の合間を縫ってボランティア活動ができたらと思っている。 				
来年度以降の 予定・目標	サポーターの会が行う健康づくり活動を支援する。				
比較参考値 (他自治体での類似 事業の例など)	神奈川県伊勢原市「健康いせはらサポーター募集」のホームページ http://www.city.isehara.kanagawa.jp/guide/fukushi/kenkou/kenkou2-7kenkousapotakouza.htm ヘルスプロモーション研究センターのホームページ http://www.healthpromotion.jp/				
特記事項 (事業の沿革等)	なし	(参考) H22年度の養成講座 1回目(講義) 講座の進め方、(グループワーク) 健康な北栄町の姿について話し合い 2回目(グループワーク) 健康な北栄町の姿について話し合い 3回目(グループワーク) 目指す健康な北栄町のための条件の検討 4回目(講義) 疑問点の解消、健康づくりの考え方の確認、今後の話し合いの方向性 5回目(グループワーク) 目指す健康な北栄町のための条件の検討、上位目的の確認 6回目(グループワーク) 目指す健康な北栄町のための条件の検討 7回目(グループワーク) 健康な北栄町のための必要な条件とそれぞれの役割の検討 8回目(グループワーク) 各グループの出した健康な北栄町のための条件確認 9回目(全体討議) 各グループの条件確認 10回目(全体討議) 健康サポーターの役割確認、まとめ			